

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100102		
法人名	(株) 快GO TOKAI		
事業所名	グループホーム 住ま居る		
所在地	岐阜県多治見市笠原町2455-42		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100102-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも住ま居るで暮らせる」という観点から、ハード面では全館バリアフリー、オール電化となっており、重介護に対応できるようにリフト浴が設置してある。またソフト面では、看護師が主治医、薬剤師等の医療従事者と密に連携をし、ターミナルケアを視野に入れた日々の健康管理など、質の高いケアを実施している。介護職員の研修体制も充実しており、ホームでの勉強会、外部での研修機会を多く確保している。この事により、質の高いサービスが提供でき、利用者、ご家族が安心して過ごせるよう積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、ドラッグストアやコンビニ、工場が周辺に立ち並び、活気ある地域にある。全館バリアフリーとなっており、浴室には機械浴を備え、重度化に対応している。職員の看護師が、主治医や薬剤師等と緊密に連携を図り、利用者の健康管理と日々の支援に、全職員と共に取り組んでいる。運営推進会議には、10名前後の家族が毎回参加して、親密な協力関係を築き、利用者の生きる力を共に支えている。管理者は、人材育成のため、職員研修や学習会の機会を多く持ち、資格取得を支援している。職員は、常に、質の高い心温まるケアを目指し、利用者が、最期まで安心して暮らせるよう、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員が共有できるように、事業所の目立つ位置に掲示し、各自が確認、意識して業務にあたるように指導。また具体的な目標を作成し、意識してケアに生かすことができるようにしている。	理念は、具体的な支援目標と共に、目立つ位置に掲示し、職員間で共有している。常に、利用者の気持ちに寄り添いながら自立を支え、利用者一人ひとりが、居心地良く、一日一日を安心して暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等へ定期的に参加している。施設の行事には地域の方へ声を掛け参加していただいている。近隣の店舗に職員と出掛け交流を図っている。地域幼稚園、地域他施設との定期的な交流を行っている。	地域の一員として、祭りや行事等に参加をし、事業所の行事には、近隣住民や園児を招き、交流を行なっている。また、買い物では、利用者共に近くの店を利用して住民と会話を交わし、日常的な付き合いがある。定期的なレクリエーションボランティアとの交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者への介護相談を受け付けたり、地域住民への情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の現況報告を行い、市職員、地域包括センター職員、地域住民、ご家族からの意見や要望を頂き、関係者やスタッフと話し合い、参加者の安心に繋げていけるよう対応を図っている。	会議は、3ヶ月毎に開催している。地域関係者に加え、毎回10名前後の家族が出席し、多様な意見を交わしている。防災対策や感染予防、食事の改善、医療対応などを話し合い、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の相談、意見交換等は密に出来ている。又、代表者は、介護認定審査会委員を行っているため、その場を通じて、意志の疎通が図れている。	市の担当者とは、運営推進会議やケア会議等で意見交換し、メールなどでも密に連絡を取っている。介護保険制度や運営上の課題は、随時相談し、助言を得ている。介護認定審査委員会には、代表者が出席し、地域包括支援センターの定期会議にも参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会の実施や、職員会議において、利用者様の処遇を話し合うなかで、身体拘束の具定例をあげながら、職員間で話し合う場を作っている。	職員は、身体拘束の弊害を研修で学び、具体例を認識し、拘束をしないケアを実践している。安全上、止むを得ない場合は、家族と話し合い、一時的な行為に留めている。玄関の出入りはセンサーで感知し、安全に配慮しながら、利用者の自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を常に閲覧できるようにして、全職員が理解できるように努めている。管理者は職員会議や業務内で注意喚起を行い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通じて、把握に努めている。地域包括支援センター主催の研修会に参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文章で密に説明を行い、理解をいただいている。料金改定や加算について、文書での説明とともに、運営推進会議にて丁寧に説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関、リビングには、意見箱を設置し意見が出やすいようにしている。また運営推進会議、家族会を通じ意見を伺っている。	運営推進会議には、毎回、半数以上の家族が参加し、意見や要望を聴き、話し合っている。また、スライド映像で利用者の暮らしの様子を見てもらっている。食事の質と量についての要望があり、速やかに改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の責任者会議、職員会議を開催し、職員の意見や提案が反映されるように図っている。	毎月、意見や提案を話し合う職員会議と、責任者会議がある。インフルエンザ予防対策、ケアの振り返りや新たな気づき等を話し合い、運営に反映させている。また、職員の健康管理や勤務調整を行ない、働きがいのある職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との意思疎通を図り、風通しの良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には職員に応じた研修(OJTも含めた)を実施。部署内、法人内で定期的な勉強会を実施。法人外の研修会にも参加するなど職員のレベルアップの図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学、イベント等への参加を通じてネットワーク作りに努めている。また地域包括支援センター主催の同業者の情報交換会に定期的に参加しネットワーク作りや事業所としての質の向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学、ご家族、担当ケアマネからの情報収集を行い、本人の嗜好や趣味等の把握に努めている。ご本人に面談した際は思いを受けとめていけるようなコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の思いや不安なおことはお聴きしてお話している。そのことをもとに、サービス利用の段階では家族の希望や不安点を確認しつつ、思いを受けとめた対応、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実情や要望等を把握したうえで、必要に応じて他の施設の情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩と位置づけ、職員の立場をわきまえたうえで、よりよい関係づくりができるよう努めている。また認知症であっても尊厳ある人として職員が対応できるよう、ケアのなかでの気づきからの援助や信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況、思いを理解しながら、家族とホームそれぞれの役割を考えつつ、ホームでの本人の生活の質を向上を図っていく為、日頃から家族への連絡や面会時でのコミュニケーションに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの場所に出向く事が出来る利用者は少ないが、職員の援助により自宅に帰られたり、家族の協力で馴染みの飲食店、接骨院に出かけたりしている。家族や親せき、知人の訪問あり。	家族や親戚の協力を得て、一時帰宅したり、飲食店や理・美容、接骨院などへ出かけている。また、職員と共に、地元のイベントや公民館での作品展に出かけたり、コンビニやドラッグストアに買い物に行き、店員さんとの馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方で、周りの利用者への声かけや気遣いをされる方があり、その方へは職員から感謝の言葉をかけるようにしている。他人同士が共に生活しているという事を理解したうえで、利用者同士がより良い関係を築けるよう、職員が間に入り援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状況の変化により他施設に移られた方へ、面会を通して関係性の保持に努めた。また永眠された利用者の家族から手紙等を頂き連絡をとってその後の精神面での支援に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、関係者からの情報収集を行い、入所前の暮らし方等の把握に努めている。また日々の言動や行動を観察して職員会議などを通じて情報共有に努めている。	利用者一人ひとりの生活歴や情報をまとめ、職員間で共有し、把握している。加えて、日々の言動からも、思いや希望を把握している。意思表示が困難な人は、家族から情報を得て、習慣やこだわり、嗜好などに配慮し、日々の暮らしの中に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活史に関することを、家族に所定用紙にて記入して頂き、入所前の本人の暮らし方を把握、共有して、本人らしい生活の維持支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL等のアセスメントを行い、本人の有する力、心身状態の把握に努め、介護記録に記載し情報を共有している。また経過観察を行い、気づきがあれば情報共有につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族はもとより、介護計画は看護師、介護職員等、本人に関わる関係者の助言や意見を踏まえて作成している。必要に応じてアセスメントを、定期的にモニタリングを行っている。	介護計画は、本人・家族も参加して、サービス担当者会議を開き、作成している。また、定期的なモニタリングに、医師や看護師の意見を加え、随時、見直しを行ない、利用者の自立を支えながら、ニーズに応じたケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など個別の介護記録に記載し共有している。また個別の伝達事項表を活用し情報の共有に努めている。また日々のケアは介護計画に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで家族が手伝って外出され通院してみえたが、身体機能の低下がみられ、また家族の状況にも変化があったので、訪問マッサージ利用について情報提供した。家族の希望で在宅に戻された方にその後について居宅のケアマネと連携した。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが持てるよう、レクに関するボランティアとの交流をもっている。地域の店へ出かけ交流を図っている。個別には地域の病院、理美容院へ出掛ける。公民館の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療を家族が希望され、本人の疾患も考慮し、そのまま継続できるよう支援を行った。専門医の受診が必要な場合は家族へ情報提供を行いスムーズな受診となるよう努めた。	かかりつけ医を継続する利用者もあるが、協力医による月3回の往診体制もある。眼科や整形、歯科などの専門医へは、家族が受診同行し、医療情報を共有している。家族の都合によっては、職員も同行している。急変時には、職員の看護師と主治医とが連携を密に、適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアのなかで利用者の状態に変化や異常があれば看護師に速やかに報告して、適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時、病院への情報提供に努めている。入院中は病院関係者と連携を図って本人、家族への支援に努めている。退院時は、ホームでの生活に支障がないように、病院からの情報提供を受け、職員に伝え生活支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化に関する指針などを説明し同意を得ている。また、その時に本人、家族の方針、意向を伺っている。その後はサービス担当者会議の場でも、本人、家族の意向を再確認したり状況に応じて話し合うようにしている。	重度化や終末期の方針を明確にし、家族の同意を得ている。また、家族との面談時や会議の場でも周知を図っている。重度化した場合、医師を含む関係者で、随時、話し合いながら連携を密にし、終末期の支援体制を整え、看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に地域消防署による救急救命講習を受講している。ホーム内でも急変時の対応などを確認し合うなどして、急変時などに備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を消防署の指導のもと実施。災害に備え食料品の備蓄と必要物品の確保管理に努めている。確実な避難の為に法人内の他施設との連携を図っている。	定期的に、昼夜を含めて、火災・地震を想定した災害訓練を実施している。安全に避難できるよう、玄関口を、広く緩やかなスロープに改修している。また、一斉メール配信システムを整え、連絡網の確認を行ない、近隣との協力体制も築いている。備蓄の管理も適切に行なっている。	事業所は、災害時における福祉避難所として、市と協定を結んでいる。災害の多様性に備え、マニュアルの見直しや地域住民参加型の総合的な防災対策に取り組まれることに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格や生活の習慣、思いを尊重して、自尊心を損ねないよう、言葉がけや対応に留意している。個人のプライバシーに関する事や場所においては配慮して対応している。	一人ひとりの生活習慣や自主性、自己決定を尊重している。利用者の言葉を抑制したり、指示的な対応にならないよう、心がけている。また、利用者が出来る事、出来ない事を見極め、自尊心を傷つけることなく、穏やかな対応で支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出が出来る方には生活の場面のなかで選択してもらっている。職員が一方的に決めるのではなく、個人の生活史を考慮したうえで、本人の立場にたった自己決定につなげたり、思いや希望を汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースに応じて過ごしていただけるように対応している。レクへの参加なども本人が選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や生活史を理解して、その方らしい身だしなみができるように努めている。本人の希望により、馴染みの美容院を利用される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業は専門の者が行っている。利用者は配膳の準備など担当を決めて行っている。食事中は職員が見守りや声かけ、介助を行う。下膳を自己にて行う方もあり、出来る事の継続につながるよう支援を行っている。	利用者は、テーブル拭きや配膳、片づけ、食器拭きなど、それぞれが出来ることに積極的に関わっている。食事中は、テレビを消して、仲間同士の会話が弾んでいる。職員は、見守りながら会話を盛り上げ、利用者は、家庭的な食事を満喫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取状態のアセスメントに努め対応している。食事形態は状態に応じて対応。水分が摂れるような工夫に努めている。体重は毎月計測し、身体機能や健康面なども含めて観察し対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを実施し、口腔内が清潔に保てるよう支援を行う。また必要に応じて歯科の受診や訪問歯科衛生士による口腔ケアの実施を支援している。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況、排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導、トイレ介助を行っている。夜間も排尿量等、個人のアセスメントを行い、適切な排泄用品や対応の時間の検討など、きめ細かく行って個々の排泄環境を整えるように努めている。	排泄の自立度が高く、布パンツの利用者もある。介助が必要な人は、リハビリパンツとパッドの組み合わせを工夫して支援している。尿意のない人は、紙おむつ利用で対応している。個々の排泄パターンに合わせて声かけを行ない、トイレ誘導し、自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態は記録に記載し職員が把握。個々の排便状態に応じ、看護師と連携を図って対応。便秘予防に十分な水分補給、適度な運動の機会が確保できるように取り組んでいる。可能な限りトイレでの自然排便が促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時はプライバシーの配慮に努め、本人の希望があったり、状態に応じて日にちや時間を変えるなどして対応。本人と職員がお話しをしながら、ゆっくりと気持ち良く入って頂けるよう対応している。	浴槽は、一般浴と機械浴を備えている。週に3回の入浴であるが、希望には柔軟に応じている。気の進まない人には、タイミングを見計らい、促し方を工夫している。異性介助も適切な対応によって、安心して楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、身体状況など考慮し心地よく安眠できるよう取り組んでいる。日中、夜間ともに入床時間は利用者の意志を尊重している。日中は個々の身体状況や生活習慣に応じて休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者個々の現疾患や既往歴など健康状態を把握して、処方される薬の把握と服薬の支援を行っている。服薬中の経過観察は看護師と密に連携を図って取り組んでいる。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での活動や個々の役割は、本人に合った内容を検討し、プランにあげ本人とも話し合いながら取り組んでいる。出来る事の継続が本人のやりがいや生活意欲につながる視点から、気持ちよくできるように支援。個別に嗜好品があれば対応。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会がもてるように支援を行っている。気候の良い時は、テラスに出てレクを行うこともある。個別で希望があれば近隣店舗への買い物を支援している。	天候に合わせて、広いテラスでのティータイムやレクリエーション、外気浴を日課にしている。喫茶店や、近隣の商店への買い物、地域のイベント等にも出かけている。また、年間行事で、季節の花見、足湯、初詣などの外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等とも相談、個別に本人の希望や能力に応じて、本人がお金を所持したり、事業所が現金出納帳を記載して管理、お金の支援を行っている。定期的に買い物レクを実施し、楽しみにつなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたり取り次いで、日頃会えない方と連絡がとれることで、本人の安心感や楽しみにつながるよう支援を行っている。手紙が届く方には返事を出すように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から入って居室に面した食堂とリビングが続いている。リビングにはソファがあり、ゆったりとくつろげるように対応。四季の切り花を飾っている。	ホームの中央に台所、事務所があり、ユニット間で自由に行き来ができる。広い共用の間には、書画や季節の花、観葉植物を飾っている。大型テレビの前には、ソファとピアノを設置し、利用者は思い思いの場所でゆったりとくつろいでいる。壁には、行事予定表、住ま居る新聞を掲示し、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が快適であるよう家具などにもこだわっている。また外にはウッドデッキがあり、独りや気の合った仲間とほっとできる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼットとベッドが備え付けてあるが、その他の家具や持ち物等は個人の使っていた物を持ち込んでいる。またその方の状態に応じて部屋の環境を整えて対応している。	居室には、クローゼットを備えている。整理筆筒や飾り棚等の家具を持ち込み、使いやすいよう配置している。見やすいカレンダーや趣味の作品、家族の写真などを飾り、居心地のよい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の能力を把握し、出来る限り安全で自立した生活が送れるように工夫している。ベッドにL字型手すりを設置することで、立ち上がりから移乗動作が安定して行えるように支援を行った。		